

太陽コロナの物理を見る

辛準鎬 (シン・ジュンホ)

総合研究大学院大学天文科学専攻 / 自然科学研究機構国立天文台研究員

Observing the Physical Structure of Solar Corona

Shin Junho

Graduate of Sokendai (The Graduate University for Advanced Studies) /

Research Specialist, National Institutes of Natural Sciences (NINS), National Astronomical Observatory of Japan (NAOJ)



世界の中でも重要な地位を占める日本の太陽研究。

「ようこう」の軟X線望遠鏡、太陽フレア望遠鏡などを使い、太陽コロナの物理的仕組みや謎を解明したい。

Japanese solar research is ranked among the most significant in the world.

Using the equipments such as the Yohkoh soft x-ray telescope and the solar flare telescope at Mitaka,

we hope to elucidate the physical structure and mysteries of the solar corona.

1995年に日本に来てから現在まで、太陽観測衛星「ようこう」に搭載されている軟X線望遠鏡からのデータを分析し、太陽表面のコロナのいろいろな物理研究を進めてきました。日本の衛星望遠鏡なので、望遠鏡がどうできているか、CCDやいろいろな装置がどう組み立てられているか、システムがどうなっているのか、といったことまで勉強することができました。

博士号を取得したあと、ポスドクとして始めた仕事は、国立天文台にある太陽フレア望遠鏡のオペレーションです。これは地上からの観測で、そのデータをいかに分析するか、また、望遠鏡がどんな仕組みで何を見ることができているのか、といった勉強もしています。そして今年からは、長野県の乗鞍コロナ観測所のオペレーションもやることになりました。そ

こで、この望遠鏡も使って太陽コロナの研究をやってみようと思っています。

日本の太陽研究は世界的にも重要な地位を占めるようになりました。とくに学生時代から現在まで師事している桜井隆教授は、世界一の有名な太陽物理学者です。先生と一緒に研究ができて本当に幸運です。

子供の時から科学者になりたかった私は、高校生の時に物理が好きだったこともあり、大学に入って天体物理学に進みました。1988年にソウル大学の天文学科修士課程を修了し、1年間の兵役のあと、私立の慶熙大学の助手になりました。

ソウル大学では星間物質の研究をしていたのですが、慶熙大学では太陽物理学者である先輩がいたこともあり、太陽物理に興味を持ち研究を始めました。ただ、

韓国の太陽物理のソサエティーは10人くらいしかいないこと、また修士号だけでは研究者として可能性が開けないことから、博士号を取ることにしました。

94年には韓国の国立天文台に移り、そして95年に総研大(国立天文台)に入学したのです。98年に博士号を取り、ポスドクを経て、現在は国立天文台の職員です。ただ気分としてはポスドクの延長なので、今年1年頑張っ、来年にはアメリカの研究所に移りたいと願っています。

日本での生活は、食べ物や習慣など、韓国とよく似ているので、問題はありません。来日当時は日本語はまったくできませんでしたが、国立天文台はみんな英語が話せるので、研究に集中することができました。そして、ポスドク以降、仕事をするために少しずつ日本語の勉強を始めたのです。

むしろ日本に来ていちばん驚いたのは、学問・研究に対する姿勢です。日本の太陽物理研究者は一生懸命、頑張っ研究する。昼夜を分かたずどこまでもやることです。これは本当に勉強になりました。研究内容はもちろんですが、それ以上に、この「研究に対する態度を学んだこと」が一番大きいと思います。

アメリカに行っても、研究のために日本に何度も来る必要があるでしょうから、そのときは日本をエンジョイしたいと思っています。何しろいまは研究で忙しいんです。



東京三鷹市にある国立天文台に設置されている太陽フレア望遠鏡。